インクルーシブな社会を支える特別支援教育の充実

2028年
実現します！

子どもたち一人ひとりが自分らしく学び
地域の一員として活躍できる社会

～ インクルーシブな社会を支える特別支援教育の充実 ～

インクルーシブ教育システムの基盤作り

教育・福祉・医療等が一体となった支援体制の確立

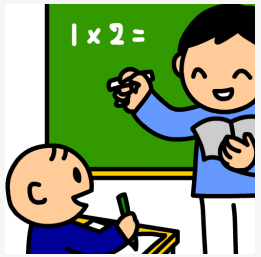
生涯を見通した切れ目ない支援の実現

・個に応じた適正な教育課程の編成
・特別支援教育に関する研修の充実
・通級指導教室の有効な活用
・適正な就学判断

・「個別の教育支援計画」の活用
・トライアングルシートの活用
・信頼や尊重し合える関係性の構築
・将来を見通したステージごとの丁寧な接続

インクルーシブな社会を支える特別支援教育の充実

個に応じた適正な教育課程の編成

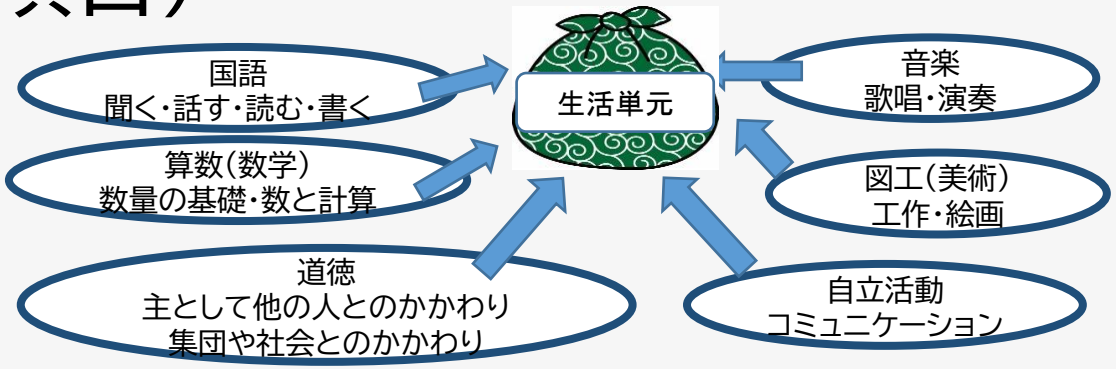


特別支援学級

- 一人ひとりの障がいや特性および発達段階等に応じた支援
- 原則として週の授業時数の半分以上特別支援学級で学ぶことを目安とするが，丁寧な説明と保護者，本人の十分な理解を前提に進める
- 自立活動を取り入れる（6区分27項目）
- 各教科を合わせた指導の充実

☆ 生活単元学習 授業例

「〇〇パーティーをしよう」



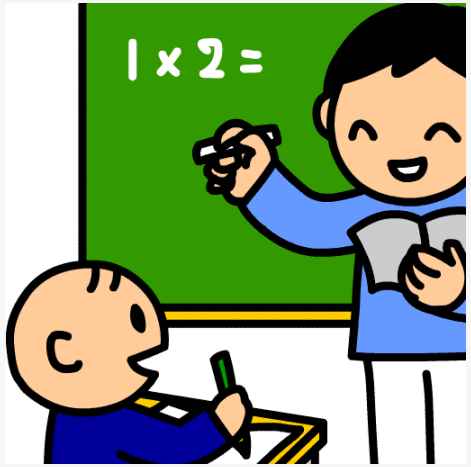
個に応じた適正な教育課程の編成

交流及び共同学習

・通常の学級における学習

→交流が実施しやすい学校のシステム作り

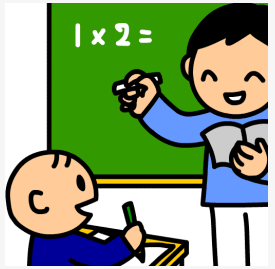
時間割の工夫
基礎的環境整備（UD）
合理的配慮
学習活動，単元等の考慮など柔軟な対応



・特別支援学校と小・中学校との交流（居住地校交流）

インクルーシブな社会を支える特別支援教育の充実

個に応じた適正な教育課程の編成



児童生徒が主体的・意欲的に取り組む授業

- 興味・関心をもつ課題設定
- 教材・教具の工夫 → 指導内容・方法の吟味
- 「できた！分かった！」達成感

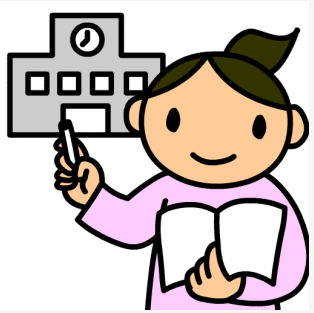
分かる喜びや学ぶ意義を実感できない授業は
児童にとって苦痛であり，児童の劣等意識を助長し，
情緒の不安定をもたらし，様々な問題行動を
生じさせる原因になるとも考えられる。

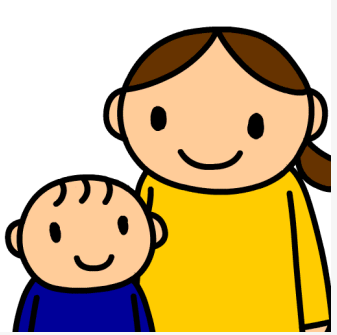
小学校学習指導要領解説（総則編）
第3章　教育課程の編成及び実施　第4節　児童の発達の支援

個別の教育支援計画の活用

作成にあたって

・校内委員会をはじめとした組織的な対応を
　→課題の確認と支援方法の検討
　→連携機関の確認，支援の役割分担等
・保護者との話し合いによる合意形成





活用にあたって

・年2～3回の保護者面談，支援の評価・改善，指導内容の見直し
・関係機関との連携により，個に応じた合理的配慮を継続的かつ組織的に実施
　→進級進学の引継ぎ資料（切れ目ない支援）

インクルーシブな社会を支える特別支援教育の充実

トライアングルシートの活用

トライアングルプロジェクト

家庭と教育と福祉の連携について

～個別の支援が必要な子どもにかかわる関係機関の連携強化に向けて～

令和３年 11 月

新潟市障がい者地域自立支援協議会

トライアングル連携シート

＿＿＿＿＿＿＿学校　学校長　様

特別支援教育コーディネーター　様

トライアングル連携シート

子どもの支援のために、利用している福祉事業所との連携を希望します。

なお、裏面に記載の例により、教育及び支援に必要な情報の提供が相互で行われることについて同意します。

1．基本情報

子どもの名前	
学年・組	年　　組　（特別支援学級名：　　）

2．利用している（利用を予定している）福祉事業所の情報（利用がない場合は空欄）

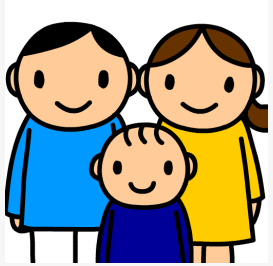
①障がい児相談支援事業所

事業所名	相談支援専門員名	電話番号	備　考

②放課後等デイサービス

事業所名	児童発達支援管理責任者名※	電話番号	備　考

各種ガイドブック



- 特別支援学級の授業づくりガイドブック
- 個別の教育支援計画作成と活用のためのQ&A
- 管理職と担任のための特別支援教育ガイドブック